

生ごみを減らしてごみの少ないまちにしよう!

南陽市の家庭から出る「生活系ごみ」を1人1日あたりのごみの排出量にすると、なんと、2023年度は1人1日510gものごみを排出しています。...



家庭から排出される可燃ごみの中、生ごみが約40%を占めていると言われています。生ごみの減量化をみなさんが意識することで、市全体のごみ減量に繋がるはずなんです。

- ▷食品ロスの削減を意識する
▷生ごみの水切りを徹底する
▷買物では、必要な分だけ買うことを意識する
▷生ごみ堆肥化処理機等を活用し、生ごみを乾燥させる
▷リサイクルできるものはリサイクルに回す



私たちにできる身近な取組

おすすめの冊子「えくぼの本棚」

「言いたいことは小5レベルの言葉でまとめる。」

手代木聡/著 サンマーク出版/発行
伝えたいことを言葉にするのが苦手な人へ、おすすめの1冊です。短い言葉や、簡単な言葉で、誰にでも分かりやすく伝えるための、言葉の使い方や考え方を教えてくれます。



新着図書紹介

※他にも多数の新着図書を取りそろえています。

- 一般書
■二十四五/乗代雄介 ■風の港 再会の空/村山早紀
■ベランダで楽しむ小さな寄せ植え菜園/たなかやすこ
児童書
■やなやつ改造計画/吉野万理子 ■パワーショベル!/鎌田歩
■知って極める!ラーメンのすべて/ラーメンのすべて編集部

図書館

南陽市立図書館 (☎43-2219)

開館時間 火~金曜、20日(木) 10時~18時
土・日曜 10時~17時
3月の休館日 3日(月)、10日(月)、17日(月)、24日(月)、31日(月)

おはなし会(児童コーナー)

- どんぐりおはなし会(どんぐりお話し会) 3/8(土)11時
■しんちゃんおはなし会(しんちゃんおはなし会) 3/22(土)11時

市立図書館おたのしみ会

【英語ストーリーテリングの会】
日時 3月15日(土)11時
演者 森 俊樹 氏
内容 英語によるお話の語り聞かせや読み聞かせ

図書館ボランティアを募集します! あなたの情熱と知識を図書館のボランティア活動に活かしてみませんか。

- 応募資格 ボランティア活動や図書館に関心をお持ちの成人の方、高校生以上の学生の方で、年間を通じて活動が可能な方
報酬 無償(交通費、食事代等の支給ありません)
申込締切 3月16日(日)
申込方法 直接または電話でお申込みください



食改さんのおすすめレシピ♪

「減塩おかず」編

厚揚げのエスニック炒め

材料(2人分)

- 厚揚げ 1枚(180g)
豚もも薄切り肉 60g
赤ピーマン 1/3個
小ネギ 4本
ごま油 小さじ2
豆板醤 小さじ1
しょうゆ 小さじ1/2
ナンプラー 小さじ1/2
砂糖 小さじ2
レモン汁 大さじ1



作り方

- ①厚揚げは1cm厚さのひと口大に切り、豚肉は5cm幅に切る。ピーマンは1cm幅、小ネギは5cm長さに切る。
②フライパンにごま油を熱し、豚肉を炒める。肉の色が変わってきたら、厚揚げ、ピーマンを加えて炒める。
③Aを加えて調味し、小ネギを加えてさっと混ぜ、器に盛る。

1人分当たり栄養価

エネルギー 232kcal / 食塩相当量 1.0g

ワンポイント

香辛料やレモン汁を使うことで、減塩できます。



中川地区食改の皆さん

市食生活改善(母子保健)推進員連絡協議会 ◆事務局・すこやか子育て課すこやか係(☎40-1691)

結城豊太郎記念館

第10回 中学生ふるさとづくり作文コンクール最優秀作品紹介



赤湯中学校3年 福田 茉幸さん

「将来は大好きなふるさとと子どもたちと」

結城豊太郎先生は、山形中学校(現山形東高校)時代に経済の道に進もうと決意し、「華族銀行論」という題で全国懸賞論文において一等賞を受賞しました。これにちなみ、平成26年から、「中学生ふるさとづくり作文コンクール」が実施されています。

私は将来、保育士になりたいと思っています。私が通っていた保育園の先生はとても元気な笑顔が素敵で、かわいらしい髪形にしてくれたり、私たちが楽しく生活できるように関わってくれていました。そんな姿に憧れたことがきっかけです。高校や大学で幼児教育を学び、実習を重ねながら多くの経験を積み、理想の保育士になりたいと思います。

十五年後の私は三十歳。今、理想としている「いつも元気で、周りから信頼される先生」に少しでも近づけるように、園児が安心して楽しく過ごせるためにどんなことができるかを考えたり、自宅に帰ってから掲示物などを作ったりしているかもしれません。保育士になりたいと考えていた私は、人権について考える機会があった際、幼児・児童虐待について調べてみました。すると、保育士不足や、母親が仕事と育児の両立などで気持ちに余裕がないことなどが原因で、子どもに辛く当たってしまうような事例が少なくないことを知りました。私はその時、幼児・児童虐待を減らしていくには、保育士をはじめとして、住んでいる地域の環境も大切なのではないかと思いました。そこで、私

のふるさと、南陽市はどうだろう、と考えてみました。私の住む南陽市には、特に二つの良さがあります。一つ目は、地域とのつながりが強いことです。私たちの地区では、味噌づくり体験や、地区と子ども会と一緒に企画するお祭りなどがありません。お祭りでは、準備から子どもと大人が一緒に進んで行きます。親と子どもだけではなく、地域に長く住んでいる方々とも、いろいろなことを教わりながら協力して活動できる場がありました。私はこのような地域活動に参加するようになり、長く住んでいる方々だけではなく、若い世代のつながりを大切にしながら、自分たちの街を良くしていこうとしているのだと実感しました。私の母も、このようにつながりのおかげで地域になじむことができ、不安などが解消されたと話していました。私が幼稚園児だった頃にも、地域とのつながりがあったのを覚えています。マーチングや花火大会などの祭りに、先生と一緒に幼稚園の近所のお宅を訪ね、招待状を渡しました。中学生になった今、あの活動は、幼稚園から地域へ元気を発信したり、幼稚園の活動や園児たちの成長を知ってもらったりすることで、互いを理解し合い、協力

し合える関係性を築くために大切なことだったのだと思います。高齢の方々にとっても、若い方々をもつことは、安心して生活していくためにこれからも大切なことだと感じています。二つ目は、自然に触れる機会が多いことです。山々に囲まれ、周りには田んぼや畑、小さな池などがあります。そのため、四季の移り変わりを身近に感じることができます。小さい時から、そんな自然と触れ合ってきました。幼稚園の時、近くの農園でリンゴ狩りの体験をさせていただき、自分自身で収穫することで、リンゴがどうやって作られているのか、そして、育てる大変さを知ることができました。また、夏には身の回りの植物から色水を作ってみたり、冬にはみんなですり滑りをしたり、その季節ならではの遊びを通して、自然の楽しさ、そして時には厳しさを感ずることができました。豊かな自然に恵まれているという南陽市の良さ。それを活かして、私たちに様々な経験をさせてくださった幼稚園の先生方がいること。このことが、私を成長させてくれたのだと思います。改めて考えてみると、私も、私の家族も、ふるさとの人々や自然に支えられ、育まれてきたのだと感じます。周囲の人々への関心を持ち、お互いに関わり合い、協力しようとする体制が普段から当たり前になっていることは、いざという時の支えにもなります。私は、ふるさとから多くのことを学び、多くのものを得て成長してきました。だからこそ、今後は私も、ふるさとのためにできることをしていきたいと思っています。